

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門分野 I 【基礎看護学】	看護概論		後藤 鈴子		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019 年入学生		
1	30	1	前期				
学習内容	<p>准看護師学校で学んだこと、准看護師としての勤務体験の中で自らの看護を振り返り「看護とは何か」を考えることにより実践の基礎となる。わが国の保健医療福祉の分野は、時代の流れとともに大きく変化しており、保健医療サービスへのニーズも多岐にわたる。看護師には療養生活支援の専門家として、専門的知識・技術・態度が求められている。講義では、看護の歴史を概観し、「人間」「環境」「健康」「看護」をキーワードに、看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かについて学ぶ。また、人間が健康やかに生きることを支える看護の目標と看護のあり方を学ぶ</p>						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	看護の歴史を理解し、説明することができる	○			○	
	2	看護の定義と看護の対象を理解し、説明できる	○			○	
	3	健康の概念を理解し、説明できる	○	○		○	
	4	看護の目的、役割と機能を理解するとともに健康に影響を及ぼす因子を説明することができる	○	○		○	
	5	健康に影響を及ぼす因子を説明できる	○	○		○	
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	看護師に必要な能力は何か説明することができる	講義		後藤鈴子		
	2	アイチンゲールから看護を学ぼう	講義		後藤鈴子		
	3	看護の目的、対象、場、機能について事例をもとに読み解こう	講義		後藤鈴子		
	4	看護学とは何か、ナイチンゲール・ヘンダーソン説明できる	講義		後藤鈴子		
	5	看護学とは何か、グループ学習	講義		後藤鈴子		
	6	看護学とは何か、グループ発表	講義		後藤鈴子		
	7	第2章看護の対象としての人間を理解し説明できる	講義		後藤鈴子		
	8	第2章看護の対象としての人間を理解し説明できる	講義		後藤鈴子		
	9	第3章 人間にとって健康とは	講義		後藤鈴子		
	10	第4章 看護サービス提供の場、病院の種類と役割	講義		後藤鈴子		
	11	第5章 看護行為を支える倫理	講義		後藤鈴子		
	12	倫理事例演習	講義		後藤鈴子		
	13	第6章 看護の提供のしくみ	講義		後藤鈴子		
	14	医療保険制度	講義		後藤鈴子		
	15	医療事故とは何か	講義		後藤鈴子		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							

授業時間外に必要な学修							
使用参考教科書	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論(医学書院) 講義資料を配布する						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○				○	
	到達目標2	○				○	
	到達目標3	○				○	
	到達目標4	○			○	○	
	到達目標5	○				○	
(自由記述欄)							
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他	授業は受身ではなく、主体的に臨むこと 提示した予習は必ずやってくること 携帯電話の使用認めません						

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
基礎分野 【基礎看護学】		ヘルスアセスメント		中本智恵子 野口直子		○ ○	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2019年入学生	
1	45	1		前期			
学習内容	看護師の求められるフィジカルアセスメントの基礎知識・技術を学び、アセスメント能力を養う。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	生命徴候のメカニズムを理解し、それぞれの関係性を説明できる	○				
	2	フィジカルイグザムの技術を実施し、正確な情報収集ができる。			○		○
	3	観察結果を、メカニズムや影響因子を基に思考・判断し、その状態を説明できる。また、判断から他の観察内容や起こり得る変化を推測できる。		○		○	
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	フィジカルアセスメントの意義、目的、方法問診の実際	コミュニケーション	問診	講義	野口直子	
	2	恒常性維持のための調節機構中枢神経系と末梢神経系意識レベル			講義	野口直子	
	3	食べる(口腔)腹部のアセスメント・フィジカルイグザム			講義	野口直子	
	4	食べる(腹部)腹部のアセスメント・フィジカルイグザム			講義	野口直子	
	5	食べる(口腔)腹部のアセスメント・フィジカルイグザム			演習	野口直子	
	6	食べる(腹部)腹部のアセスメント・フィジカルイグザム			演習	野口直子	
	7	おしっこをする・ウンチをする腹部のアセスメント・フィジカルイグザム			講義	野口直子	
	8	腹部の解剖 機能 問診腹部全体(視診 触診 聴診 打診)			演習	野口直子	
	9	「生きている」ことのアセスメント			講義	中本智恵子	
	10	バイタルサインズ			講義	中本智恵子	
	11	体液バランス			講義	中本智恵子	
	12	恒常性維持のための流通機構			講義	中本智恵子	
	13	息をする			講義	中本智恵子	
	14	フィジカルアセスメントの思考と判断			講義	中本智恵子	
	15	フィジカルアセスメントの思考と判断			講義	中本智恵子	
	16	呼吸器系フィジカルイグザム			演習	中本智恵子	
	17	循環器系フィジカルイグザム			演習	中本智恵子	
	18	事例(発熱と腹痛)のフィジカルアセスメント			演習	中本智恵子	
	19	事例(発熱と腹痛)のフィジカルアセスメント			演習	中本智恵子	
	20	事例(発熱と腹痛)のフィジカルアセスメント			演習	中本智恵子	
	21	事例(発熱と腹痛)のフィジカルアセスメント			演習	中本智恵子	
	22	事例(発熱と腹痛)のフィジカルアセスメント			演習	中本智恵子	
	23	事例(発熱と腹痛)のフィジカルアセスメント			演習	中本智恵子	

<p>授業時間外に必要な学修</p>							
<p>使用参考教科書</p>	<p>【教科書】 日常生活こうどうからみえる ヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて 大久保暢子 編2016年8月1日 第1版第1刷 日本看護協会出版会 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 2016年2月第1版第6刷 医学書院 【参考書】 フィジカルアセスメントがみえる 平成28年 2月第1版第3刷 メディックメディア 清村紀子他編(2014): 根拠と急変からみたフィジカルアセスメント 医学書院 清村紀子他編(2014): 機能障害から見たからだのメカニズム 医学書院</p>						
<p>成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業へのとりくみ状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
	<p>到達目標1</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標2</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標3</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標4</p>						
	<p>到達目標5</p>						
<p>(自由記述欄)</p>	<p>①技術試験100点/筆記試験100点の結果の平均点が最終成績評価となる。</p>						
<p>成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p>履修にあたっての留意点 学生へのメッセージその他</p>	<p>* フィジカルアセスメントを理解するためには、解剖学 生理学の知識が必要となる。講義前などは事前に復習しておくことより、理解しやすいと思われる。講義(知識)と技術を合わせて体験することでより理解が深まり、知識を実践に活かすことができると考える。</p>						

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
専門分野 I 【基礎看護学】	看護学方法論 I (看護技術・環境・活動・休息) (食事・排泄) (清潔・衣生活)		徳丸 真由美 徳丸 真由美 吉野 千春	○ ○ ○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	45	1	前期				
学習内容	健康的な日常生活を促進する援助技術としての生活援助について学ぶ。また演習を通して、対象者の状態をアセスメントし適した援助方法を選択・実施し、科学的根拠を音に安全・安楽・快適さを考えた援助を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。	○	○	○		
	2	対象の生活環境を整える方法を理解し、実践できる。	○	○	○		
	3	活動と休息を援助する方法を理解し、実践できる。	○	○	○		
	4	衣生活の援助の目的・根拠を理解できる。	○				
	5	清潔援助の目的・根拠を理解し、対象者の状態に応じた方法で援助が出来る。	○	○	○		
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	看護技術基盤 今後の授業の進め方の説明 1)医療安全の確保 2)患者および家族への説明と助言 3)的確な看護判断と適切な看護技術の提供	講義	徳丸 真由美			
	2	環境調整技術 1)環境を構成する要素 2)環境が健康に与える影響とは 3)健康を促進させる環境とは 4)事例を通して、対象に合った環境について考えることができる。	講義	徳丸 真由美			
	3	活動・休息援助技術 1)基本的活動の援助 ① 基本的活動の基礎知識 ②体位 ③体位変換 ④移動 ⑤移乗・移送	講義	徳丸 真由美			
	4	活動・休息援助技術 2)事例を通して、対象にとって安全安楽な移動、移乗について考えることができる。	講義	徳丸 真由美			
	5	活動・休息援助技術 1)①睡眠の基礎知識 ②援助の実際 2)事例を通して、活動と休息の援助について考えることができる。	講義	徳丸 真由美			
	6	苦痛の緩和・安全確保の技術 1)体位保持(ポジショニング) 2)箆法 3)身体ケアを通じてもたらされる安楽 4)事例を通して、苦痛の緩和・安全確保の援助について考えることができる。	講義	徳丸 真由美			
	7	演習 事例を通して適切な看護援助を提供する看護技術を学ぶ	演習	徳丸 真由美			
	8	演習 事例を通して適切な看護援助を提供する看護技術を学ぶ	演習	徳丸 真由美			
	9	演習 事例を通して適切な看護援助を提供する看護技術を学ぶ	演習	徳丸 真由美			
	10	食事援助の基礎知識 1)食事・栄養の意義、栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 2)医療施設で提供される食事	講義	徳丸 真由美			
11	2. 食事介助 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義	徳丸 真由美				

	12	摂食・嚥下訓練 1)援助の基礎知識 摂食・嚥下訓練 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義	徳丸 真由美			
	13	非経口的栄養摂取の援助 1)経管栄養法 2)中心静脈栄養法	講義	徳丸 真由美			
	14	・自然排尿および自然排便の介助 1)排泄の意義、自然排尿および自然排便の基礎知識 2)自然排尿および自然排便の介助の実際 ・導尿 1)一時的導尿 2)持続的導尿	講義 演習	徳丸 真由美			
	15	排便を促す援助 1)排便を促す援助の基礎知識 2)浣腸(グリセリン浣腸) 3)摘便 ストーマケア 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義 演習	徳丸 真由美			
	16	演習 食事の援助	演習	徳丸 真由美			
	17	清潔・衣生活の援助の意義	講義	吉野 千春			
	18	清潔の援助	GW	吉野 千春			
	19	清潔の援助	発表	吉野 千春			
	20	洗髪演習(デモンストレーション)	演習	吉野 千春 他			
	21	洗髪演習	演習	吉野 千春 他			
	22	洗髪演習	演習	吉野 千春 他			
	23	洗髪演習	演習	吉野 千春 他			
授業時間外に必要な学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・事例に基づいた計画の立案 ・リフレクション ・洗髪の技術練習 						
使用参考教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 ・看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ・根拠と事故防止からみた基礎・臨床・看護技術 第2版 医学書院 						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○	○	○	○	○	○
	到達目標2	○	○	○	○	○	○
	到達目標3	○	○	○	○	○	○
	到達目標4	○	○	○	○	○	○
	到達目標5	○	○	○	○	○	○
(自由記述欄)	終講試験(100点中30点) 技術試験(100点)						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ	履修にあたっての留意点						

分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
専門分野 I 【基礎看護学】	看護学方法論 II (治療・処置時の援助) ・検査の介助・身体計測・創傷 処置・酸素吸入・吸引 ・与薬の技術	野口 直子 徳丸 真由美	○ ○				
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019 年入学生			
1	45	1	後期				
学習内容	診療処置時の援助が、対象者にとって安全・安楽を考え、正確に実施できるための基礎的な知識と技術を身につける。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	各検査の特徴・注意点,看護を理解する。	○	○	○	○	○
	2	審査・検査時の介助を理解する。	○	○	○	○	○
	3	感染防止の基本を理解する。	○	○	○	○	○
	4	与薬の基礎知識と各与薬の援助の基礎技術・実際を理解する	○	○	○	○	○
	5	基礎知識を基に、皮下注射、採血、血沈(赤血球沈降速度)の技術を習得する	○	○	○	○	○
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	基礎知識と各検査の特徴と注意点・診察・検査・処置の介助技術	講義	野口 直子			
	2	感染防止の技術	講義・DVD	野口 直子			
	3	呼吸・循環を整える技術・感染防止の技術・無菌操作の技術	演習	野口 直子			
	4	呼吸・循環を整える技術・感染防止の技術・無菌操作の技術	講義	野口 直子			
	5	演習のリフレクション	講義	野口 直子			
	6	呼吸・循環を整える技術 酸素吸入と吸入	講義	野口 直子			
	7	酸素ボンベ使用中の管理	講義	野口 直子			
	8	演習の準備と学習	講義	野口 直子			
	9	鼻腔吸引法 聴診	演習	野口 直子			
	10	鼻腔吸引法 聴診	演習	野口 直子			
	11	薬物動態について 吸収・代謝・排泄のメカニズム	講義	徳丸 真由美			
	12	薬剤の種類について 投与時の注意点 6RIについて	講義	徳丸 真由美			
	13	注射の技術について 筋肉注射・皮下注射	講義 DVD	徳丸 真由美			
	14	輸液の管理について	講義 DVD	徳丸 真由美			
	15	皮下注射:注射器の持ち方、針の刺入などについて模擬腕を使用	演習	徳丸 真由美			
	16	教員の指導のもと、30分/人で一連の皮下注射の技術を実施	演習	徳丸 真由美			
	17	教員の指導のもと、31分/人で一連の皮下注射の技術を実施	演習	徳丸 真由美			
	18	教員の指導のもと、32分/人で一連の皮下注射の技術を実施	演習	徳丸 真由美			
	19	教員の指導のもと、33分/人で一連の皮下注射の技術を実施	演習	徳丸 真由美			
	20	教員の指導のもと、34分/人で一連の皮下注射の技術を実施	演習	徳丸 真由美			
	21	血液検査の目的を理解し、検体を正しく取り扱うための準備	演習	徳丸 真由美			
22	静脈血採血 学生間で真空採血管を使用して安全に採血し、赤血球沈降速度を測定	演習	徳丸 真由美				

	23	静脈血採血 学生間で真空採血管を使用して安全に採血し、赤血球沈降速度を測定	演習	徳丸 真由美			
授業時間外に必要な学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・事例に基づいた計画の立案 ・リフレクション ・注射の技術練習 						
参考教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 ・看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ・根拠と事故防止からみた基礎・臨床・看護技術 第2版 医学書院 ・看護学生のための物理学 第5版 医学書院 ・写真でわかる臨床看護技術1アドバンス,インターメディカ2017 ・写真でわかる臨床看護技術2アドバンス,インターメディカ2017 ・月刊ナーシング やってはいけない看護ケア 学研 2016 						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					○
	到達目標5	○					○
(評価方法自由記述欄)	技術試験:皮下注射						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点その他							

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
専門分野 I 【基礎看護学】	看護学方法論Ⅲ (看護過程の理論)		安部三枝子	○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	前期				
学習内容	看護の対象は人である。その人の生活をとりえ、身体的・精神的・社会的側面から理論を用いて総合的に理解する方法と対照の抱えている看護問題の解決に向けて実践につながる思考プロセスを学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	看護過程の意義を理解できる	○				
	2	看護の専門性について理解できる	○				
	3	看護アセスメントとは何かを理解できる	○	○	○		
	4	看護過程の構成要素とその目的・思考が理解できる	○	○	○		
	5	「看護過程の理論」の学習を次の「看護過程の事例展開」に活かせるよう理解できる	○	○	○		
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	1. 看護師は何をする人なのか(看護の役割) 2. 考える人になるには 3. アセスメントとは	講義	安部三枝子			
	2	1. 看護過程の構成要素 2. 問題解決過程 3. 情報のもつ意味	講義	安部三枝子			
	3	1. 情報の取り扱い(観察、情報の種類) 2. 看護の枠組みと看護過程 3. アセスメント	講義	安部三枝子			
	4	1. 看護過程の展開とクリティカルシンキング 2. 情報収集の枠組み(ゴードンの機能的健康パターン)	講義	安部三枝子			
	5	1. ゴードンの機能的健康パターンの理解	GW	安部三枝子			
	6	1. ゴードンの機能的健康パターンの理解 2. SOデータについて	GW	安部三枝子			
	7	1. ゴードンの機能的健康パターンの理解	GW	安部三枝子			
	8	1. ゴードンの機能的健康パターンの理解 情報を整理し看護に活かすとは	GW	安部三枝子			
	9	アセスメントとは 1つのパターンについてアセスメントを考える 全体関連図の示し方	講義	安部三枝子			
	10	アセスメントの確認(学生の例をもとに考える) 関連図に示す内容 関連図と看護問題(看護診断)との関連: PESの抽出 看護診断ハンドブックの使い方	講義	安部三枝子			
11	看護問題の表し方 看護診断 看護問題の種類	講義	安部三枝子				

	12	全体関連図から問題を統合する思考	講義	安部三枝子			
	13	全体関連図の確認 問題リストの表し方 看護問題の優先度の考え方	講義	安部三枝子			
	14	看護計画 看護目標 計画立案	講義	安部三枝子			
	15	看護記録(SOAP) 評価 まとめ	講義	安部三枝子			
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に 必要な学修	理解をするために課題に対する事前学習をした上でGWや講義に臨む。						
使用 参考 教科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程学習ガイド 思考プロセスからのアプローチ 学研 ・ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 ・看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 						
成績 評価 の 方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり くみ状況	6.その他 (備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述 欄) 評価 方法	終講試験にて評価する。						
成績 評価 の 基準	・学習の到達度に応じて、優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他	看護の思考・実践につながる知識であり、各科目の知識の重要性に気づける機会になると思います。また実習で看護を実践するために必要不可欠な知識ですので主体的な学習を期待します。						

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門分野 I 基礎看護学	看護学方法論Ⅳ 看護過程の事例展開		安部三枝子		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019 年入学生		
1	30	1	前期				
学習内容	看護の対象である人々を基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱの知識をもとに、身体的・精神的・社会的側面から理論を用いて総合的に理解する。看護学方法論Ⅲの理論を用いて紙上事例を展開し対象理解、看護問題明確化、看護問題解決の思考過程を理解し実践につなげる。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	対象者の身体機能と生活行動との関連や精神的・社会的側面から全体像をとらえ健康につながる看護についてアセスメントできる。	○	○	○	○	
	2	対象者の全体像から看護問題を明らかにし要因、症状・徴候は対象者の個別の状態を説明できる。問題解決の優先順位は判断基準をもとに説明できる。	○	○	○	○	
	3	看護目標を評価しやすいよう表せる。看護問題を解決するための計画を行動できるように表せる。	○	○	○	○	
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容			授業方法	備考 (講師名)	
	1	学習の進め方			講義	安部三枝子	
	2	アセスメント			個別指導	安部三枝子・全教員	
	3	アセスメント			個別指導	安部三枝子・全教員	
	4	アセスメント			個別指導	安部三枝子・全教員	
	5	アセスメント			個別指導	安部三枝子・全教員	
	6	アセスメントの検討 全体討議			GW	安部三枝子・全教員	
	7	アセスメントの検討 全体討議			GW	安部三枝子・全教員	
	8	全体関連図			個別指導	安部三枝子・全教員	
	9	全体関連図			個別指導	安部三枝子・全教員	
	10	全体関連図の検討			GW	安部三枝子	
	11	看護計画立案			個別指導	安部三枝子・全教員	
	12	看護計画立案			個別指導	安部三枝子・全教員	
	13	看護計画の検討			GW	安部三枝子	
	14	評価 実際の事例をもとに考える			講義	安部三枝子	
	15	看護計画・実践・リフレクションと評価のつながり 看護過程のまとめ			講義	安部三枝子	
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
21							

	22						
	23						
授業時間外に必要な学修	個人で事例展開したレポートをもとに追加・修正を行い学びを深める。授業時間内にレポートや指導を受けるが、授業時間外の取り組みが重要な科目である。						
使用参考教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程学習ガイド 思考プロセスからのアプローチ 学研 ・ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 ・看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1				○		
	到達目標2				○		
	到達目標3				○		
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由記述欄)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例に対する看護過程を展開する。 ・各自担当教員と調整し主体的に指導を受ける機会をつくる。 ・「ルーブリック評価表」を用いて評価する。 						
成績評価の基準	学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他	看護学方法論Ⅲに続く科目であり、看護に必要不可欠な看護過程を学ぶ機会であるので理解が深まるよう計画を立て、主体的に学ぶことを期待します。						

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
専門分野 I 【基礎看護学】	看護研究		吉野千春		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	2	前期				
学習内容	研究方法の基礎を身につけ、分析的・評価的視点で看護の専門性や科学性を追求する姿勢を養う。臨地実習の受持ち患者をとうしてケーススタディをまとめることができる。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	看護研究の基礎を身につける。	○			○	
	2	ケーススタディをとうして、看護研究計画書が適切に作成できる。	○	○	○	○	
	3	ケーススタディをとうして、実習での看護を振り返り、その根拠や理論を明らかにできる。	○	○	○	○	
	4	ケーススタディをとうして、課題に積極的に取り組むことができる。		○	○	○	○
5							
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	ケーススタディとは	講義	吉野千春			
	2	研究の進め方・研究課題の検討と決定・研究の倫理的配慮	講義	吉野千春			
	3	文献レビュー・文献の読み方	講義	吉野千春			
	4	研究デザイン・質的量的研究とは・インタビューガイド質問紙	講義	吉野千春			
	5	研究計画書の作成(グループワーク)	グループワーク	吉野千春			
	6	研究のまとめ方・論文の具体的な書き方	講義	吉野千春			
	7	ケーススタディの書き方	講義	吉野千春			
	8	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	9	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	10	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	11	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	12	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	13	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	14	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	15	ケースレポート作成	個別指導	担当教員			
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							

<p>授業時間外に必要な学修</p>	<p>1) 指定したテキストを読んでおくこと 2) 別府大学図書館の利用方法・文献検索方法を復習しておくこと 3) ケーススタディの研究計画書は、担任教員に提出し、指導を受け許可をもらっておくこと(ケースレポート作成の1週間前) 4) ケースレポート作成日(3日間)にレポート完成できない場合は、担当教員に相談しレポート作成を進めること。(最終提出日11/5まで)</p>						
<p>使用参考教科書</p>	<p>1)「はじめて学ぶケーススタディ」編著：國澤尚子 総合医学社 I 基礎看護学 看護研究 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野</p>						
<p>成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業へのとり組み状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
	<p>到達目標1</p>					<p>○</p>	
	<p>到達目標2</p>				<p>○</p>		
	<p>到達目標3</p>			<p>○</p>	<p>○</p>		
	<p>到達目標4</p>				<p>○</p>	<p>○</p>	
<p>(自由記述欄) 評価方法</p>	<p>①ルーブリック評価表にて評価 ②授業やケーススタディ指導時の態度</p>						
<p>成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p>履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他</p>	<p>ケース検討会を持つ予定。</p>						

分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
専門分野 I 【基礎看護学】	臨床看護学総論 ・入院・退院患者と家族への援助,症状別援助,嚥下機能障害のある患者の看護 ・術前-術後の看護 ・集中治療を必要とする患者の看護 ・手術中の看護	徳丸 真由美 丹生 敬子 花田 友美	○ ○ ○				
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	後期				
学習内容	看護学方法論 I・II の教育内容・ヘルスアセスメントを基盤とし、入院・退院時の患者・家族の看護を中心に、臨床の場における看護の役割について認識を深め、健康水準に応じた看護援助の必要性を理解する。専門分野 I の学びを臨地実習(基礎看護学)および専門分野 II へと発展させる機会とする。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	入院・退院・外来時の患者・家族のニーズを理解する。	○	○		○	○
	2	カンファレンスの基本要素を理解し、カンファレンステーマに沿った準備、発言ができる。	○	○	○	○	○
	3	疾患により症状のある患者の看護について理解する。	○	○		○	○
	4	手術療法の目的と術前から術中の看護師の役割を理解する。	○	○			
	5	術後の看護師の役割を理解する。	○	○			
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1)生活と療養の場とは 2)病院・施設における看護	講義	徳丸真由美			
	2	看護カンファレンス 1)目的 2)構成要素 3)ポイント 4)運営	GW	徳丸真由美			
	3	痛みのある患者の看護 1)メカニズム 2)アセスメント 3)援助	講義・GW	徳丸真由美			
	4	痛みのある患者の事例を通して学ぶ	GW	徳丸真由美			
	5	カンファレンスおよび振り返り	GW	徳丸真由美			
	6	摂食・嚥下障害のある患者の看護 1)メカニズム 2)アセスメント 3)援助	講義	徳丸真由美			
	7	摂食・嚥下障害のある患者の事例について	GW	徳丸真由美			
	8	演習	演習	徳丸真由美			
	9	振り返り	GW	徳丸真由美			
	10	手術前看護	講義	丹生 敬子			
	11	麻酔について 手術体位と手術について	講義	花田 友美			
	12	手術前～手術後の看護について 手術室看護師の役割について	講義	花田 友美			
	13	手術前看護	GW 演習	丹生 敬子			
	14	手術後の看護の視点および看護	講義	丹生 敬子			
	15	手術後看護	講義	丹生 敬子			
	16						
	17						
18							

	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・事例に基づいた計画の立案 ・リフレクション 						
使用参考教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 ・周手術期看護Ⅱ 術中/術後の生体反応と急性期看護 ・よくわかる周手術期看護 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 ・看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ・根拠と事故防止からみた基礎・臨床・看護技術 第2版 医学書院 						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○				○	
	到達目標3	○		○		○	
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述欄)							
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。 						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージその他							

分野		科目名		担当教員		実務経験の有無	
						有	無
専門分野 I 【臨地実習】		基礎看護学		徳丸真由美		○	
科目単位数	時間	対象学年		開講時期		2019 年入学生	
3	135	1		後期			
学習内容	対象者を生活者として、身体的・心理的・社会的側面から捉え、学び積み重ねてきた知識・技術・態度を、実践をとおして看護場面で適用できる基礎的能力を養う。基礎看護学実習 I では、看護援助場面の見学や体験を通し、看護とは何かを考え看護を実践する者としての基本的な態度を身につける。基礎看護学実習 II では、看護援助場面の見学や共に実践する中で、対象者に関心を寄せ意図的に観察をし、症状緩和のための援助や日常生活援助を通して、看護の視点を学び、看護とは何かを明らかにする。						
到達目標	No.	到達目標					
	1	【基礎看護学実習 I】 対象者に関心を持ち、健康上の問題による基本的欲求の変化と生活への影響を理解する。					
	2	【基礎看護学実習 II】 さまざまな健康障害をもつ対象者の健康・生活上の課題を把握し、看護の思考過程をとおして対象者の日常生活援助を整えるために必要な看護を実践することが出来る。					
	3	【基礎看護学実習 I・II】 看護専門職業人として、基本的な技術や態度を身につける。					
	4						
	5						
	6						
実習計画	講義内容・授業計画(配当時間を含む)						
	【実習施設】						
	独立行政法人国立病院機構 大分医療センター						
	九州大学病院別府病院						
	大分県厚生連鶴見病院						
	社会医療法人恵愛会 大分中村病院						
	社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター						
	【実習期間・実習時間】						
	基礎看護学実習 I 2019年11月12日～11月15日						
	* 病院実習 8:30～16:30 7時間×4日間						
	* 学内実習 8:30～16:30 7時間×1日間 計 35時間						
	基礎看護学実習 II 2020年1月14日～2月3日						
	* 病院実習 8:30～16:30 7時間×13日間						
	* 学内実習 8:30～16:30 7時間×2日間 計 105時間						
【実習方法】							
基礎看護学実習 I 受け持ち患者の理解 看護師の援助の見学およびともに実践する							
基礎看護学実習 II 受け持ち患者の看護過程の展開および実践							

<p>評価方法</p>	<p>・「基礎看護学実習ルーブリック評価表」を用いて評価する ・評価者(実習指導者,教員)</p>
<p>使用参考教科書</p>	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版社 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて 日本看護協会出版社 看護過程学習ガイド 思考プロセスからのアプローチ 学研 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社</p>
<p>学生へのメッセージその他</p>	<p>「自分で考え行動できる看護師になりたい。」というビジョンを持って臨む最初の臨地実習です。改めて看護の基礎を学ぶにあたり、目の前の患者に真摯に向き合い、五感を使って、人を生活者として理解するとは、健康とは、看護とはということを追求していきましょう。</p>